

過去の災害を学ぶ

1月に起きた

過去にあった災害から注意すべきことを学びましょう。

令和6年1月1日 能登半島地震 (2024年)

能登半島地震は、2024年(令和6年)1月1日16時10分に、日本の石川県の能登半島地下16km、鳳珠郡穴水町の北東42kmの珠洲市内で発生した内陸地殻内地震。地震の規模はM7.6で、輪島市と羽咋郡志賀町で最大震度7を観測しました。

この地震により日本海沿岸の広範囲に津波が襲来したほか奥能登地域を中心に土砂災害、火災、液状化現象、家屋



の倒壊、交通網の寸断が発生し、甚大な被害をもたらした。元日に発生したこともあり、帰省者の増加による人的被害の拡大や、新年行事の自粛など社会的にも大きな影響がありました。

→(被害)人的被害は、死者241人、負傷者1,296人であり、住家被害は、全壊7,704棟、半壊9,467棟、それ以外に、浸水や一部破損等多数の被害が報告されています。

この地震から建物の耐震強度を地域により割り引く「地震地域係数」が示されているが、輪島市等その係数が0.9であるにも関わらず、コンクリート建築物も被害が発生したことから、国土交通省では基準を全国一律に見直す検討が始まりました。

※「地震地域係数」とは……

建物の耐震設計で、地域ごとの過去の地震活動や被害状況に基づき、地震の力を割り引く(減らす)ために用いられる係数で、1.0~0.7の範囲で国土交通大臣が定めます。

地震の頻度が高い地域は1.0、低い地域は0.9、0.8、0.7と区分され、係数が低いほど設計地震力を小さく(緩く)できますが、この基準は1952年(昭和27年)から更新されておらず、見直しの検討が進められています。

●中学生の活躍……

能登半島地震では、中学生たちがボランティアとして自主的に活動し、復興に貢献しています。穴水町では、中学生が解体跡地での防草シート張り作業に挑戦し、地元ボランティア「穴水レンジャーズ」と共に奮闘しました。また、避難所のゴミ分別や物資の搬入、瓦礫片付けの手伝いなど、安全な範囲で積極的に大人や避難者を支えています。中学生は力仕事だけでなく、細やかなサポートや情報整理



などで能動的に活躍しました。救援物資の運搬・仕分け、炊き出しの補助、簡易シャワー室の清掃、ゴミ分別、さらには被災者の心のケアまで幅広く貢献。年齢を活かした機動力で、避難所運営の貴重な担い手として活動しました。若く力のある中学生が自ら動いたことは、避難生活の質を向上させる大きな力となりました。

★避難所における中学生の具体的な活躍・役割

○力仕事・物資支援……………救援物資の搬入、仕分け、配布

大人の手伝いとして、簡単な瓦礫撤去や清掃
徒歩帰宅する被災者への食料・水の手配支援

○避難所運営・環境整備……………ゴミの分別や、簡易シャワー室などの清掃・管理

避難者名簿の整理や情報の掲示など、事務作業の補助

○被災者サポート……………高齢者の話し相手や心のケア、イベントの企画

避難所で困ったことの多い、トイレの清掃やトイレ環境の改善



●学校自体が避難所となる場合、生徒自身の安全確保とともに、教職員が多忙な中、校内の施設維持や運営をサポートする役割も期待されます。

今月の取り組み

1月の安全に関する取り組みを紹介します。

★1月8日(木)・13日(火)・15日(木)・20日(水) 登校指導



1月の登校指導です。

今月の登校指導では学期始めということもあり 8日・13日・15日・20日の四日間実施しました。

長期休業明けはどうしても生活のリズムが乱れがちです。どうしても起きる時間が遅くなり、時間に間に合わない者が多くなってしまいがちです。先月にも書きましたが、安全な登校をするには余裕をもった行動が肝心です。校門近くの道路は抜け道となっているのか朝は車の通行量が多く、道幅もけして広くはなく、交互通行のため車のすれ違いも

ギリギリという状態です。危険はあります。そこで焦った状態で走っての登校は事故に合ってしまう危険度も挙がります。正しい生活リズムをとることそれが、事故防止につながるということです。また、学校経営協議会(CS)委員の皆様にもご協力をいただきました。

★1月14日(水) 校内研修会(研究授業) 生命(いのち)の安全教育

「生徒が自分の命を大切にできるようにする」をテーマにし各クラスで取り組みました。

今回の授業では、自分自身を大切な存在であると実感する授業を各学年、クラスで取り組みました。





自他の生命を大切にすることを理解し、性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないようにする。そのためには、自他を思いやり、相手と適切な距離感で行動していく必要があること、それについて考えを深めました。授業の内容は、普段の学校生活の取組を振り返りから…。動画教材を見てから…。「ぼくのお話 あなたの物語」の話聞いてから…。用などそれぞれ学年、特別支援クラスで内容を考え実施しました。

その後、自分の良いところについて考える。クラスの人に自分の良さを伝えてもらう。メッセージカードに良さを記入し、クラスメイトに渡していくなどを行い、気付いていなかった自分のこと、他の人の理解ことの理解を深めていきました。自分も他の人も大切な存在であることを心に思っしてほしいと思います。これからも、この取り組みは続けていきます。

★1月15日(木) 避難訓練 (備蓄の必要性の点検)

1月の避難訓練です。

今月の避難訓練は、いつ起こるか分からない災害に対しての備えを学習しました。

大型地震が発生した際どのような行動をとるか、日頃からの備えは…ということで、「在宅避難について知る」「日常備蓄について確認する」「家庭における備えを見直し、考える」という三点を目的に知識としての学習と、家庭の状況チェックを行いました。(自宅に帰ってからの宿題です。)

まず、デジタル版防災ノートを参照しながらの学習です「大震災が発生した際に、自宅に十分な耐震性がある場合は「在宅避難」をすることを、次に在宅避難※1の場合、備蓄が必要であること、地震や災害はいつ起こるか分からないため、日頃から備えることが大切であることを。そして、循環型備蓄※2について考えを深めました。最後に宿題(実技)として家庭における備えについて確認するというので、(チェックリストを用いて)自宅での備蓄を確認して、翌日朝提出となります。形の違った避難訓練ですが、これもまた大切な取り組みです。

1月避難訓練 めあて：日常備蓄について考える

年 組 番 名 前

1 チェックリストで、日頃の備えができているか、確認しましょう。

備蓄品	<input type="checkbox"/> 備蓄品(ライフラインの代替品を含む)を準備している。 <input type="checkbox"/> 少なくとも3日分の食料 <input type="checkbox"/> 少なくとも3日分の飲料水(一人1日3リットルが目安) <input type="checkbox"/> カセットコンロ、ガスボンベ <input type="checkbox"/> 携帯用トイレ <input type="checkbox"/> トイレトイレットペーパー <input type="checkbox"/> マスク
非常用持ち出し袋	<input type="checkbox"/> 非常用持ち出し袋を準備している。 <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 食料品 <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <input type="checkbox"/> 衣類 <input type="checkbox"/> 寝物 <input type="checkbox"/> ちり紙 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 電池 <input type="checkbox"/> お金 <input type="checkbox"/> マッチ、ライター <input type="checkbox"/> ろうそく <input type="checkbox"/> ハブラシ <input type="checkbox"/> 貴重品 <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 救急セット(お薬手帳) <input type="checkbox"/> 体温計 <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 雨具(防寒) <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> その他
家具類の転倒防止	<input type="checkbox"/> 寝床や自分がよくいる場所は、ものが落ちてこない、倒れてこない配置になっている。 <input type="checkbox"/> たんす、食器棚、冷蔵庫、テレビ等の転倒防止策をしている。 <input type="checkbox"/> 戸棚の扉を留め金で固定している。 <input type="checkbox"/> たんすや冷蔵庫の上に重い物を載せていない。 <input type="checkbox"/> テレビや花瓶などを高い場所に置いていない。 <input type="checkbox"/> 玄関、通路や階段など、避難経路をふさいでいない。 <input type="checkbox"/> 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼っている。
避難時の備え	<input type="checkbox"/> 自宅、職場からの一時集合場所、避難場所、避難所を確認している。 <input type="checkbox"/> 安全な避難経路を確認している。 <input type="checkbox"/> 二次災害を防ぐため、電気のブレーカーやガスの元栓の処理方法を確認している。
連絡網の備え	<input type="checkbox"/> 緊急時の連絡方法である災害用伝言ダイヤル(171)の使用方法を確認している。

2. 循環型備蓄について考え、自宅の備蓄や非常用持ち出し袋がどこにあるか確認しよう。

① チェックリストをやってみて、いくつチェックが付きましたか?	個
② チェックリスト「備蓄品」と「非常用持ち出し」の中で、循環型備蓄ができるものに色を付けましょう。	
③ 家に帰ったら、備蓄品や非常用持ち出し袋がどこにあるか確認しましょう!⇒すぐに見つけられましたか?	場所:
④ 自分の家の当てはまるものに、○をつけよう!	
我が家の備蓄は...	完璧! 改善の必要あり! これから準備しよう!
我が家の非常用持ち出し袋は...	完璧! 改善の必要あり! これから準備しよう!
⑤ 今日のチェックリストを家の人と共有して、家庭での備蓄について考えたことを書こう!	

しっかり覚え
行動に!

(用語について)

※1 在宅避難 → 災害時に自宅が倒壊・浸水などの危険がない場合、安全を確認した上で自宅にとどまり生活を続けることです。プライバシーや生活の自由が確保でき、避難所の混雑や感染症リスクを避けるメリットがあります。電気・ガス・水道が止まる可能性を考慮し、最低3日から1週間分の水・食料・携帯トイレなどを備蓄しておく必要があります。

※2 循環型備蓄 → ローリングストックといいます。普段から利用している食品や日用品を多めに買い置きし、賞味・使用期限が近いものから消費し、使った分だけ新しく買い足す手法です。常に一定量の在庫家庭に保ち、期限切れを防ぎながら、災害時でも使い慣れたものを活用できます。

安全指導

1月の安全指導を振り返ります。

★1月8日(木) 安全指導

始業式の中で今月の安全指導を行いました。

生活指導主任の先生から、新しい学期の始まりとして。「一人一人が楽しく、安全に生活できる場を作っていこう」「1日のスタートをしっかりとしましょう。そのためには時間に余裕をもって行動できるようにしましょう」という話がありました。焦って行動をすると周囲が見えなくなり、事故に合いやすくなります。休み明けのヒューマンエラーです。通学でも、学校内の生活でも同様です。十分に注意をしていきしょう。また、冬休み期間中に事故などにあってしまった場合は報告をしてくださいという話がありました。……(後に確認)幸いなことに事故に巻き込まれた人はいなかったとのことです。よかったです。



しっかり覚え
行動に!

安全を考える

安全指導での内容を受けて……

1月は冬休みの生活から新学期へ切り替わる時期です。

寒さも厳しく、道路も凍結する場合があります。また、防災意識(震災等の教訓)を高める安全指導が重要になります。

生活・交通・災害の3観点から、冬道や火災に注意した登下校指導や、避難訓練の振り返りなど「安全教育」と「安全管理」の強化が求められます。



○1月に特化した学校安全のポイント

- ・交通安全(冬道・凍結)→凍結した道路での「急」のつく操作(急ブレーキ・急ハンドル)がさらに危険性を増すことを覚えておきましょう。登下校時など車の動きに注意です。
- ・徒歩・自転車通学では、滑りやすい路面での転倒や、視界不良時の事故などか置きやすいです。

○生活安全(火災・健康)

- ・乾燥する季節のため、暖房機器の取り扱いなど火の用心を。
- ・防災意識の向上(1月の教訓):過去の震災(※巻頭参)を振り返り、避難経路や非常時の避難方法を再確認しましょう。

○3学期の安全体制

- ・長期休み明けは気が緩みやすいため、休み時間や体育の授業における危険予測(KYT:危険予知トレーニング)を実施する。

※危険予知トレーニング(KYT)は、職場や交通場面のイラスト・動画を見て「どんな危険が潜んでいるか」をグループ話し合い、事故を未然に防ぐ能力を高める安全教育の取り組みです。

